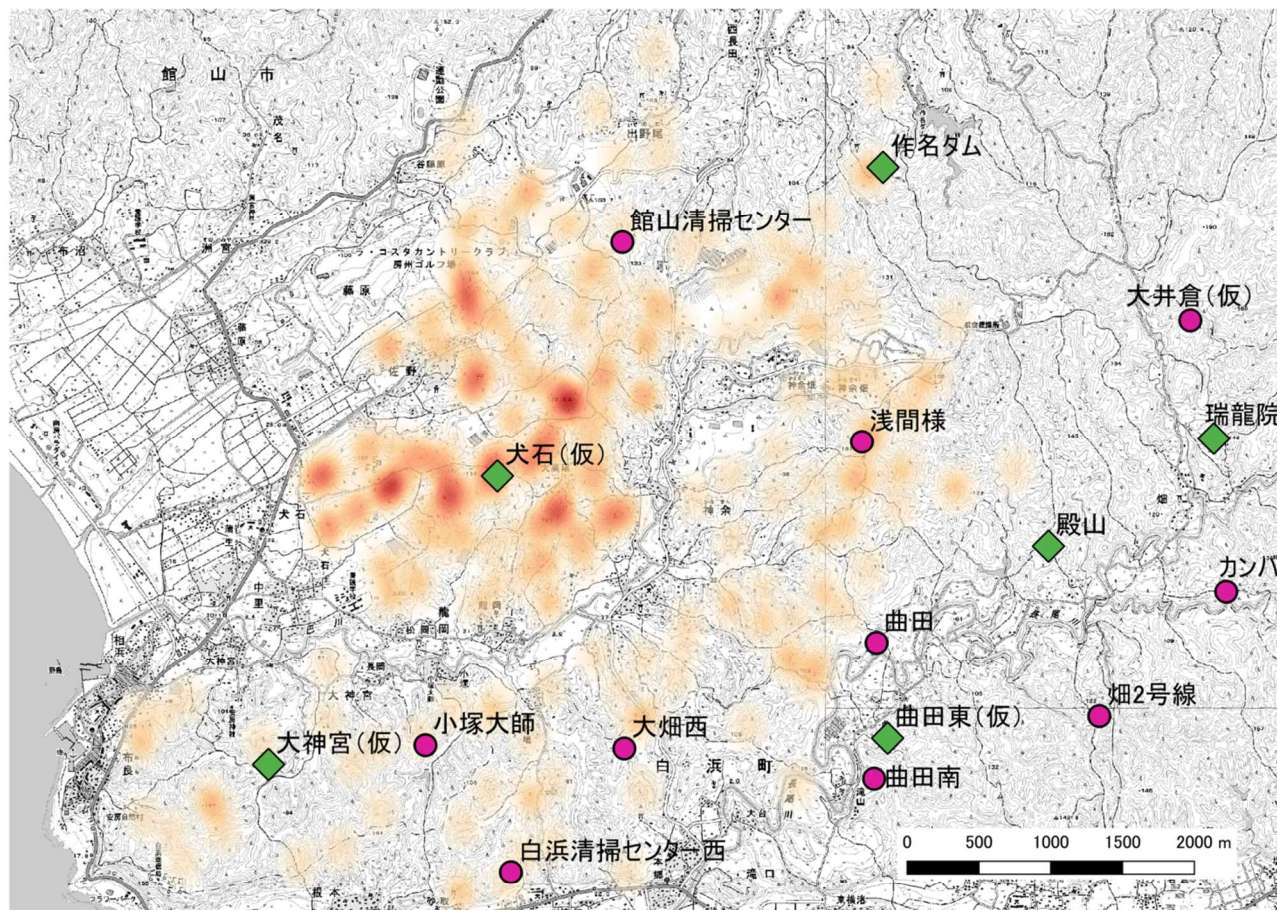


アカゲザル防除に関する各種データ

1. 群れの確認年度と発信器の発着状況（令和2年9月時点）

| 群れ名 | 確認年度 | 発信器装着数 | | 備考 |
|--------------|-------|--------|-----|---------------------------------|
| | | VHF | GPS | |
| ウルシ群 | 2012年 | 5 | 3 | 発信器初装着は2016年。 |
| ナギ群 | 2018年 | 0 | 1 | |
| ハヤブサ集団 | 2011年 | 0 | 1 | オス個体に装着。旧カボチャ群。 |
| ミヤコ・クワ群 | 2013年 | 4 | 1 | ミヤコ群とクワ群はそれぞれ2006年に確認。 |
| エダマメ・ナシ群 | 2012年 | 2～3 | 0 | 旧型1台。 |
| ヒメオウギ群 | 2019年 | 0 | 1 | 2019年度分裂確認。 |
| コンブ群 | 2015年 | 1 | 0 | |
| タキミ群 | 2008年 | 7 | 1 | |
| スズシロ・キノコ群 | 2015年 | 7～8 | 0 | 旧型1台。スズシロ群は2008年、キノコ群は2014年に確認。 |
| オタキ・ススキ群(本体) | 2006年 | 2～3 | 1 | 旧型2台。2011年から2012年にかけて一時分裂。 |
| ツバキ群 | 2019年 | 1 | 0 | 2019年度分裂確認。 |
| ポピー・キンセンカ群 | 2015年 | 2 | 0 | |
| アリドオシ群 | 2015年 | 0 | 0 | 2019年度発信器切れ。 |
| モウセンゴケ群 | 2016年 | 2 | 0 | |
| スタジイ群 | 2016年 | 3 | 1 | |
| アジサイ群 | 2011年 | 1～2 | 1 | 旧型1台。 |
| ヨモギ群 | 2008年 | 2 | 1 | |
| センリョウ群 | 2013年 | 3 | 0 | |
| パンジー群 | 2016年 | 0 | 0 | 2019年度発信器切れ。 |
| 合計 | | 40～44 | 12 | |

2. 群れの集中利用地域（ヒートマップ）



凡例

利用頻度



● 固定式大型檻

◆ 移設式大型檻

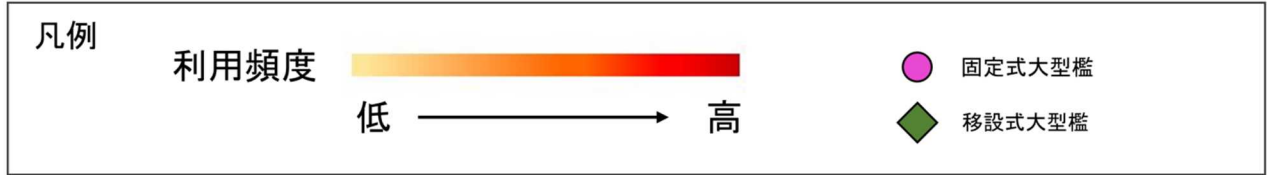
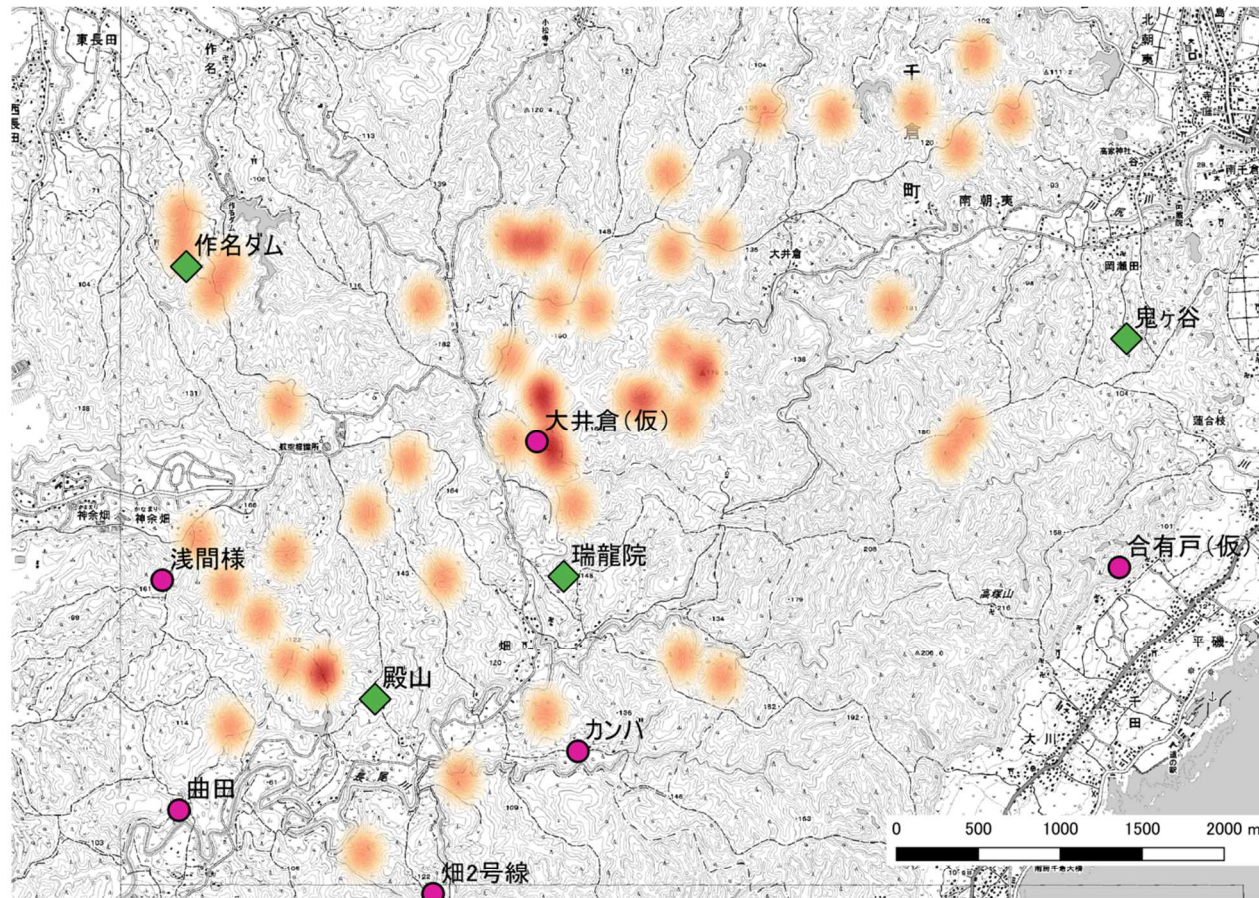
ウルシ群

推定規模：250 頭 (R1
実測値 297
頭)

捕獲数：316 頭

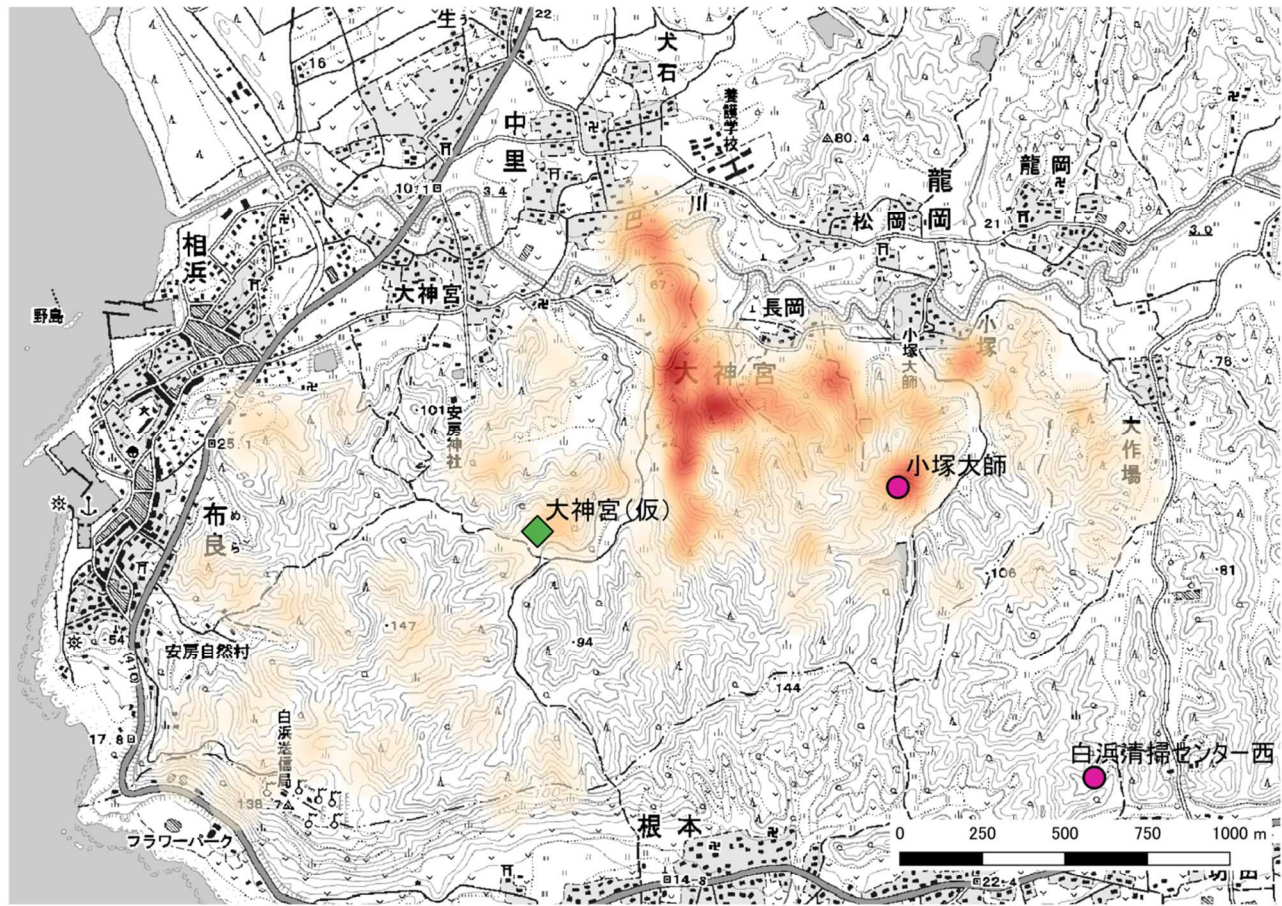
特徴：

- ・最近では毎年 100 頭程度捕獲している。
- ・捕獲の影響か、行動域北西部の利用が多くなった。→R2 年度に大型檻を建設 (犬石)



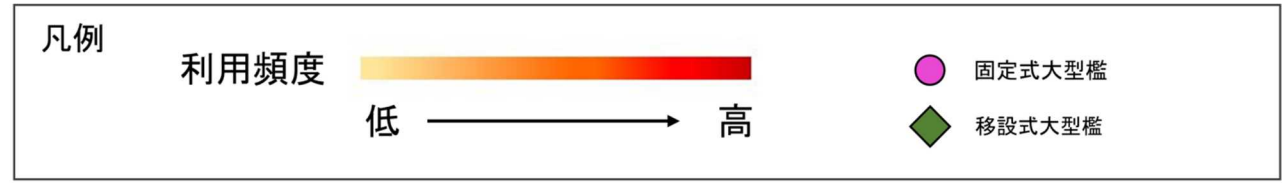
ハヤブサ集団
 推定規模：100～150 頭
 捕獲数：1 頭
 特徴：

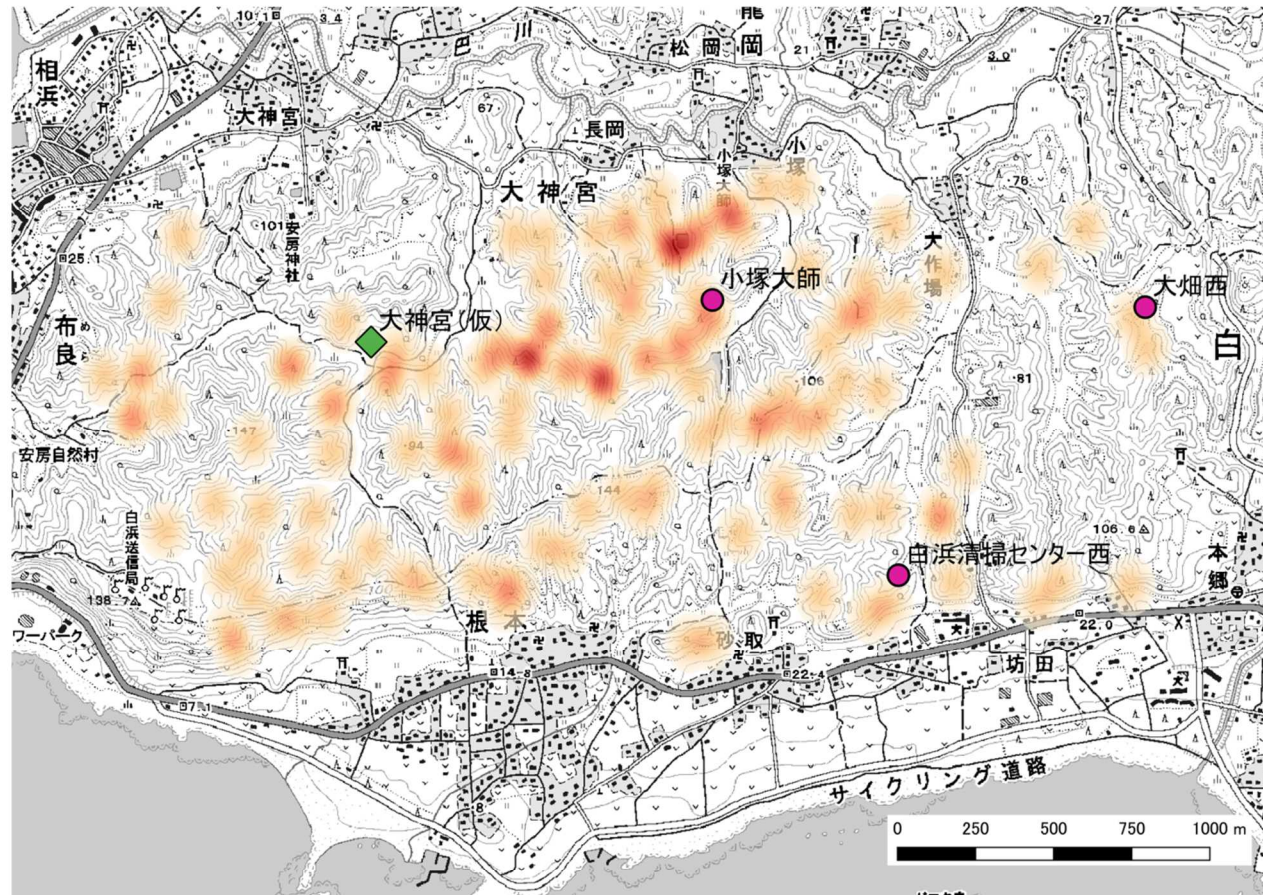
- ・オス個体に GPS 首輪が装着されているのみ。(2020 年 1 月から)
- ・大型檻での捕獲歴なし。
- ・作名ダムの檻で餌付き例があるが、利用が少なく捕獲には至っていない。
- ・R2 年度に行動域の中心部に大型檻を建設(大井倉)



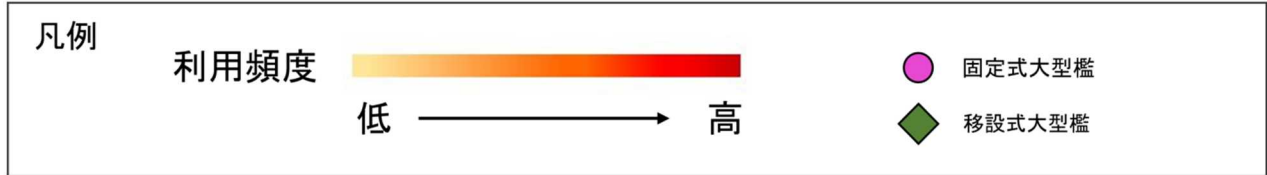
ミヤコ・クワ群
 推定規模：20～30 頭
 捕獲数：498～571 頭
 特徴：

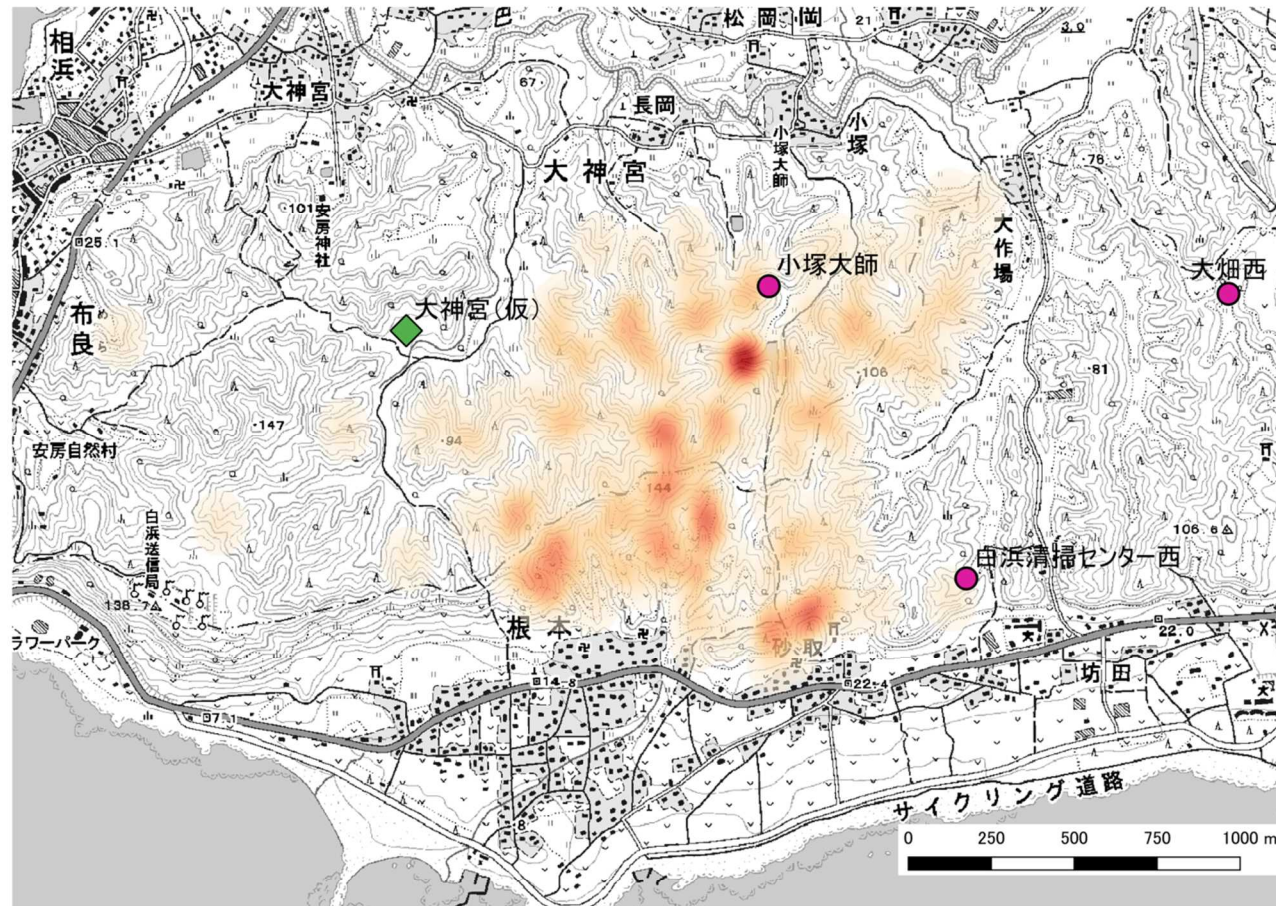
- ・発信器装着個体以外の捕獲が少ない。
- ・小塚大師の周りの利用は高いが、捕獲が少ない。
- ・利用エリアが1か所に集中している。
- ・住宅近くにいるが、警戒心が強い。



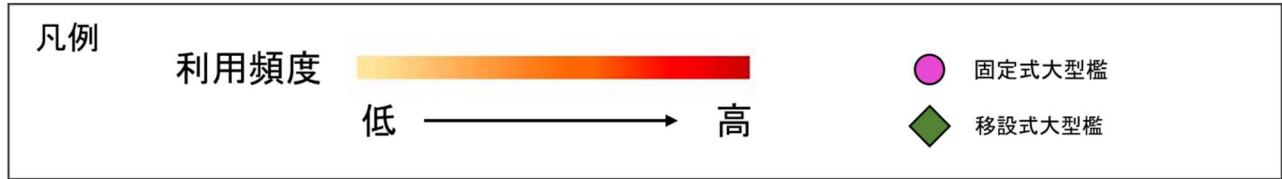


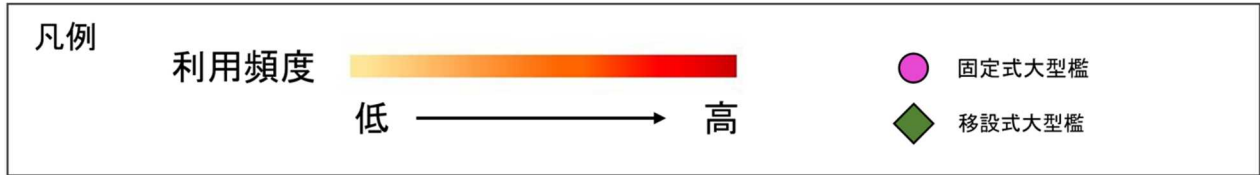
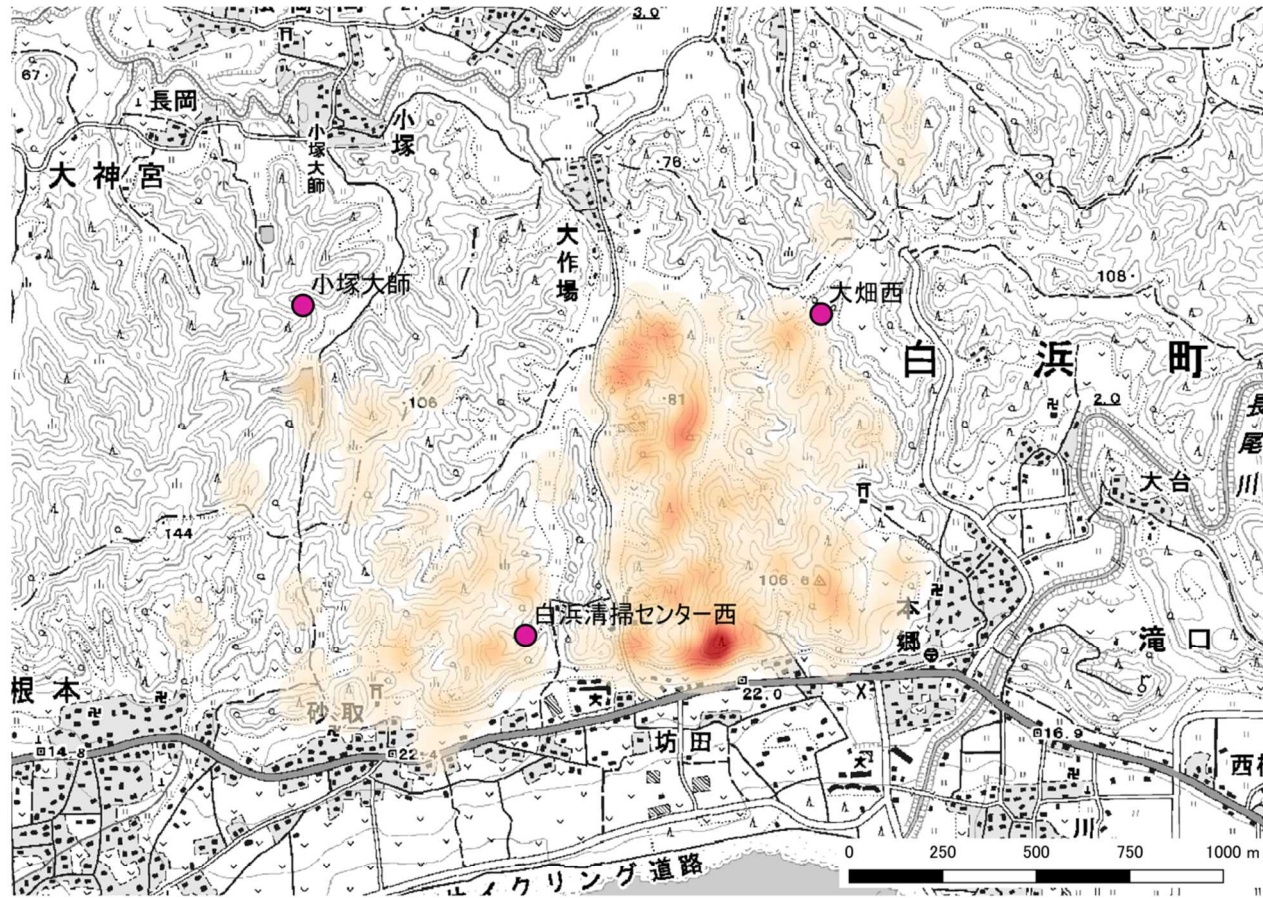
ヒメオウギ群
 推定規模：50 頭
 捕獲数：0 頭
 特徴：
 ・2019 年度にエダマメ・ナン群から分裂。
 ・西側地域を広く利用している。
 ・小塚大師の大型檻付近に来るが、今のところ餌付きがない。



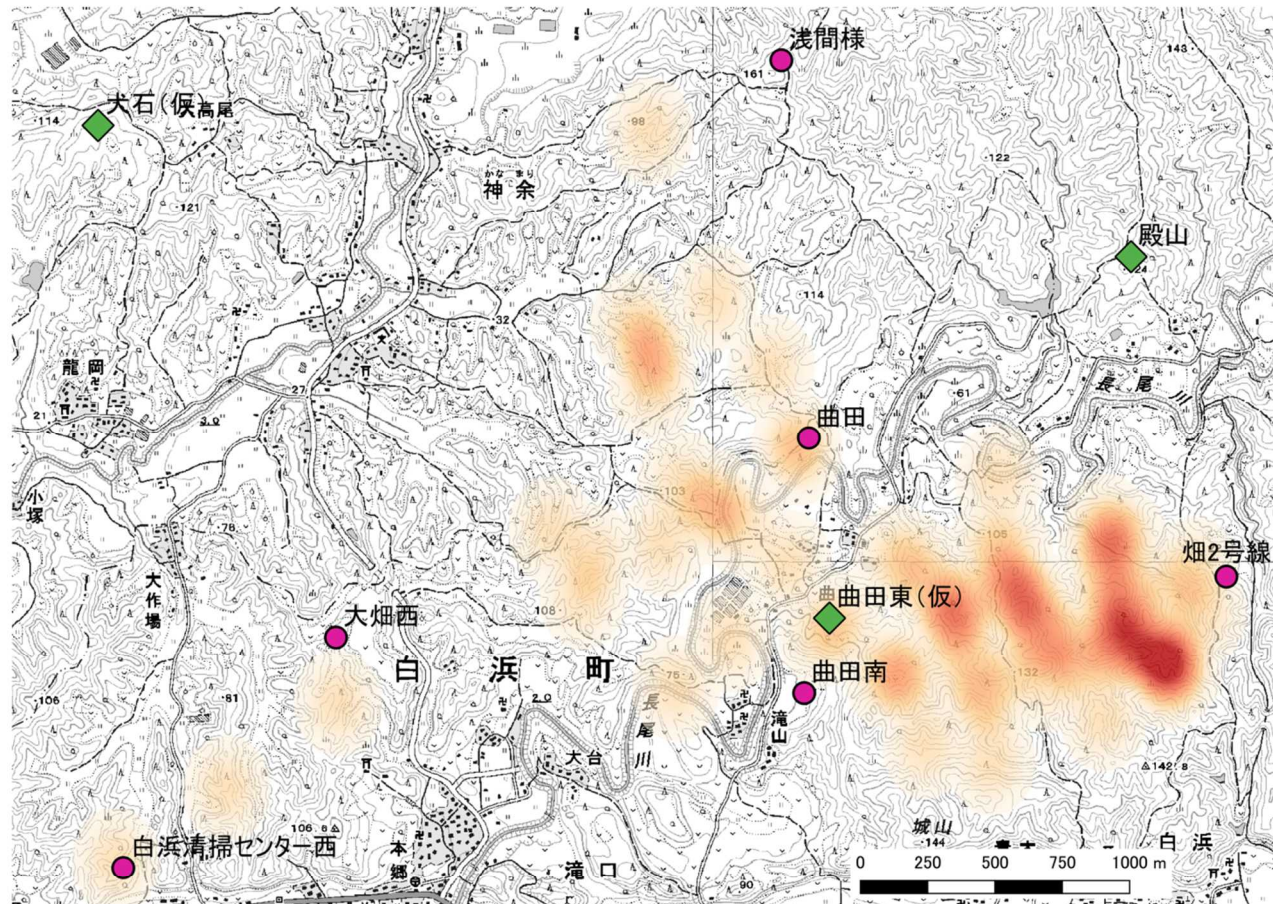


タキミ群
 推定規模：20 頭
 捕獲数：45～92 頭
 特徴：
 ・発信器装着頭数が多い。(8 頭)
 ・他の群れと一緒に捕まることが多い。
 ・山奥での確認が多く、なかなか目視出来ない。

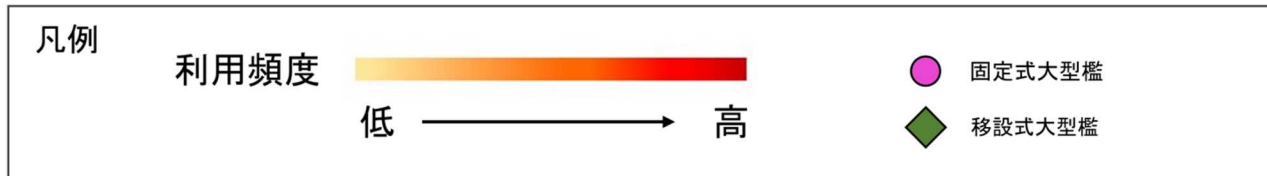


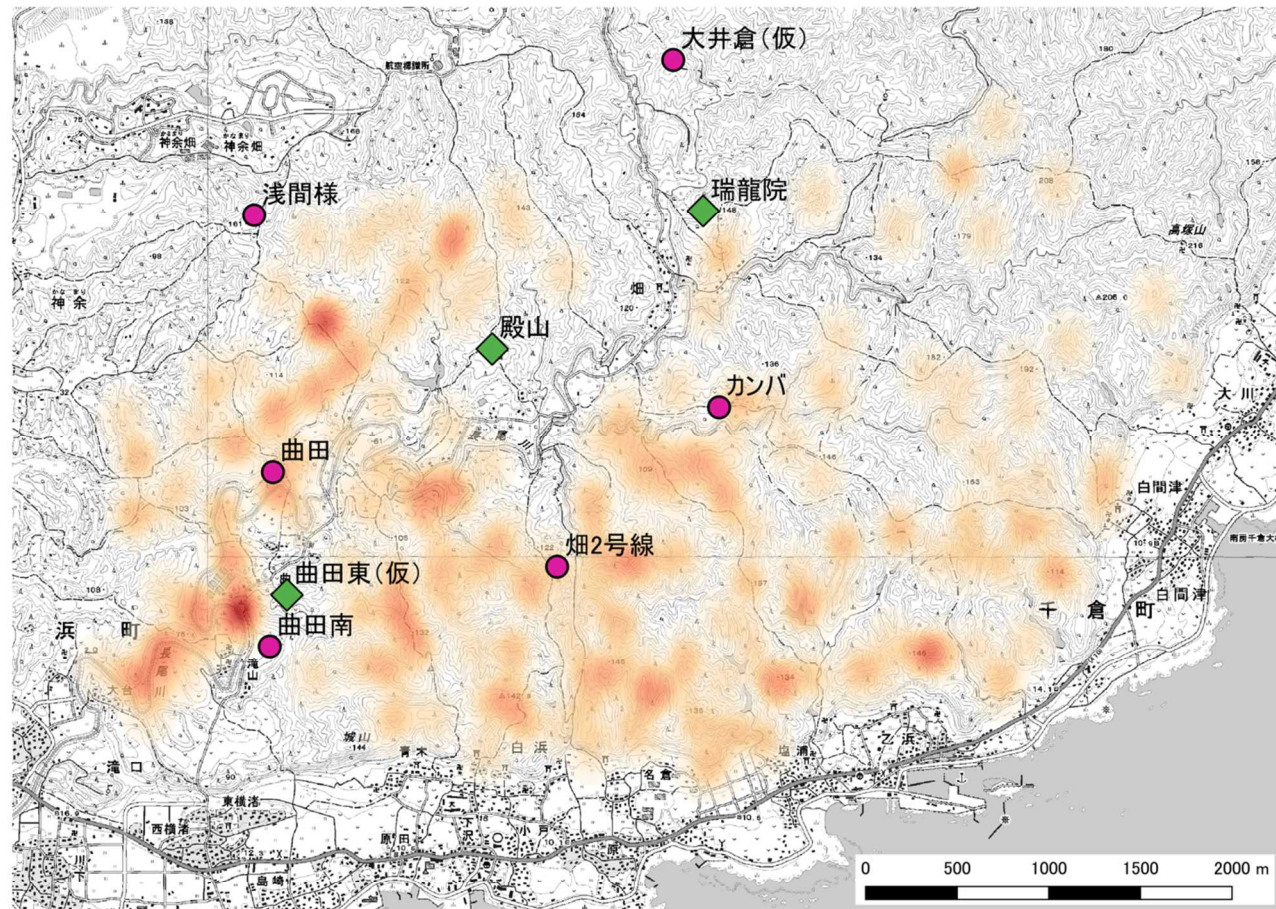


スズシロ・キノコ群
 推定規模：20～30 頭
 捕獲数：143～244 頭
 特徴：
 ・特定の山林に利用が集中している。
 ・一度に群れの全体が捕獲されない。



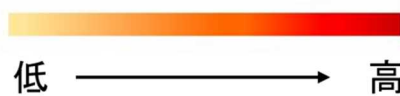
オタキ・ススキ群
 推定規模：30～50 頭
 捕獲数：1127～1129 頭
 特徴：
 ・近年群れの状態が不安定で分裂個体が見られる。(2年で4個体確認)
 ・大型檻の縁で確認されるが、檻に入らない(飛び込まない)。





凡例

利用頻度



- 固定式大型檻
- ◆ 移設式大型檻

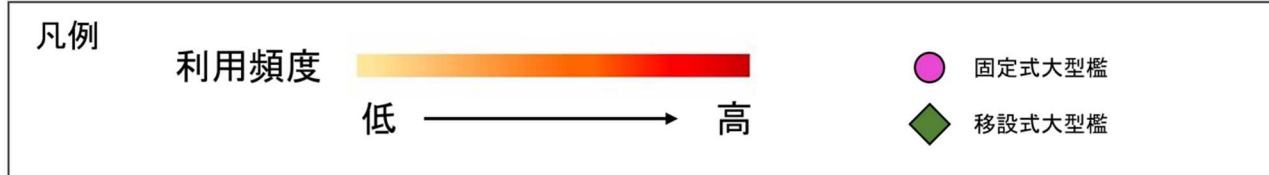
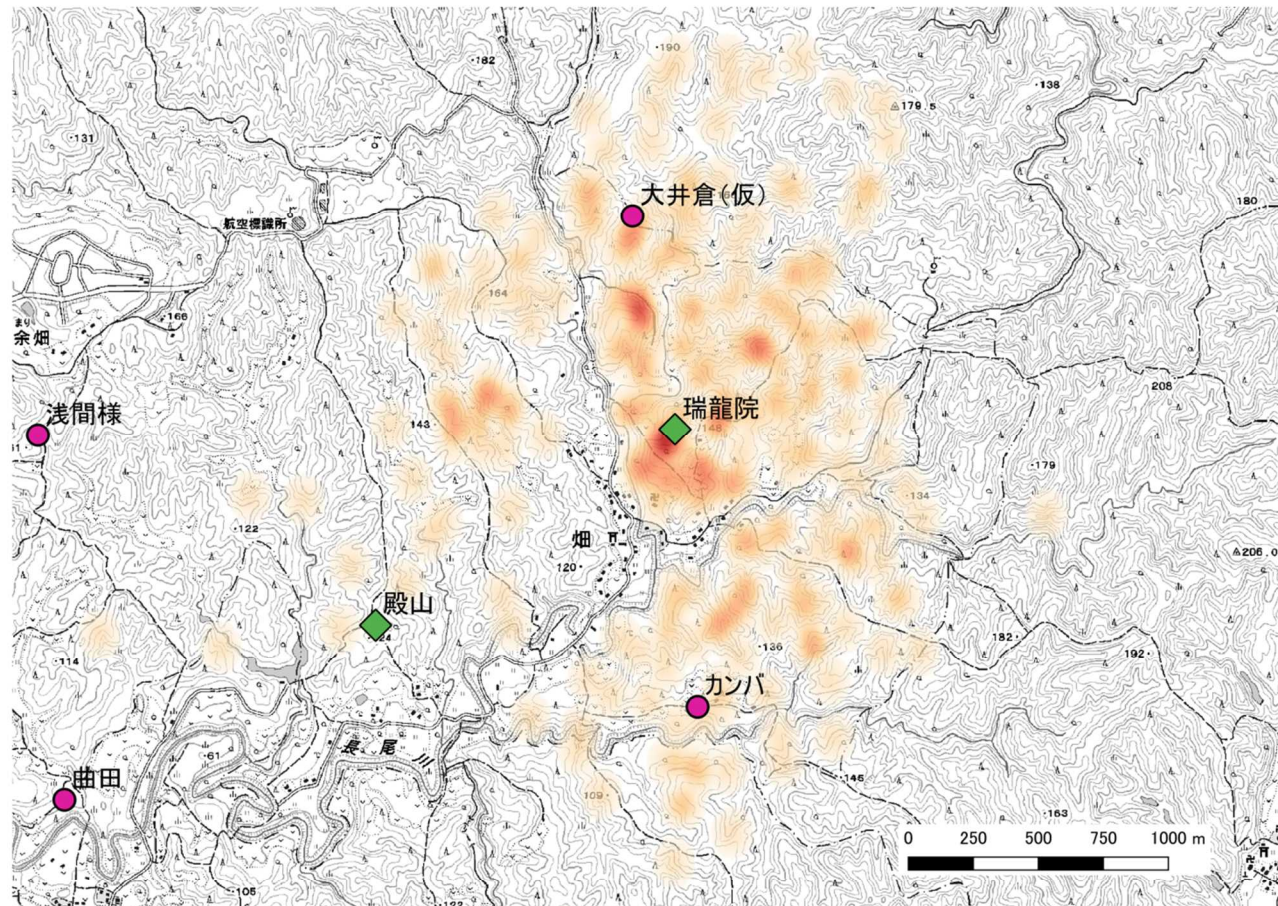
スダジイ群

推定規模：350 頭 (R1
実測値 290
頭)

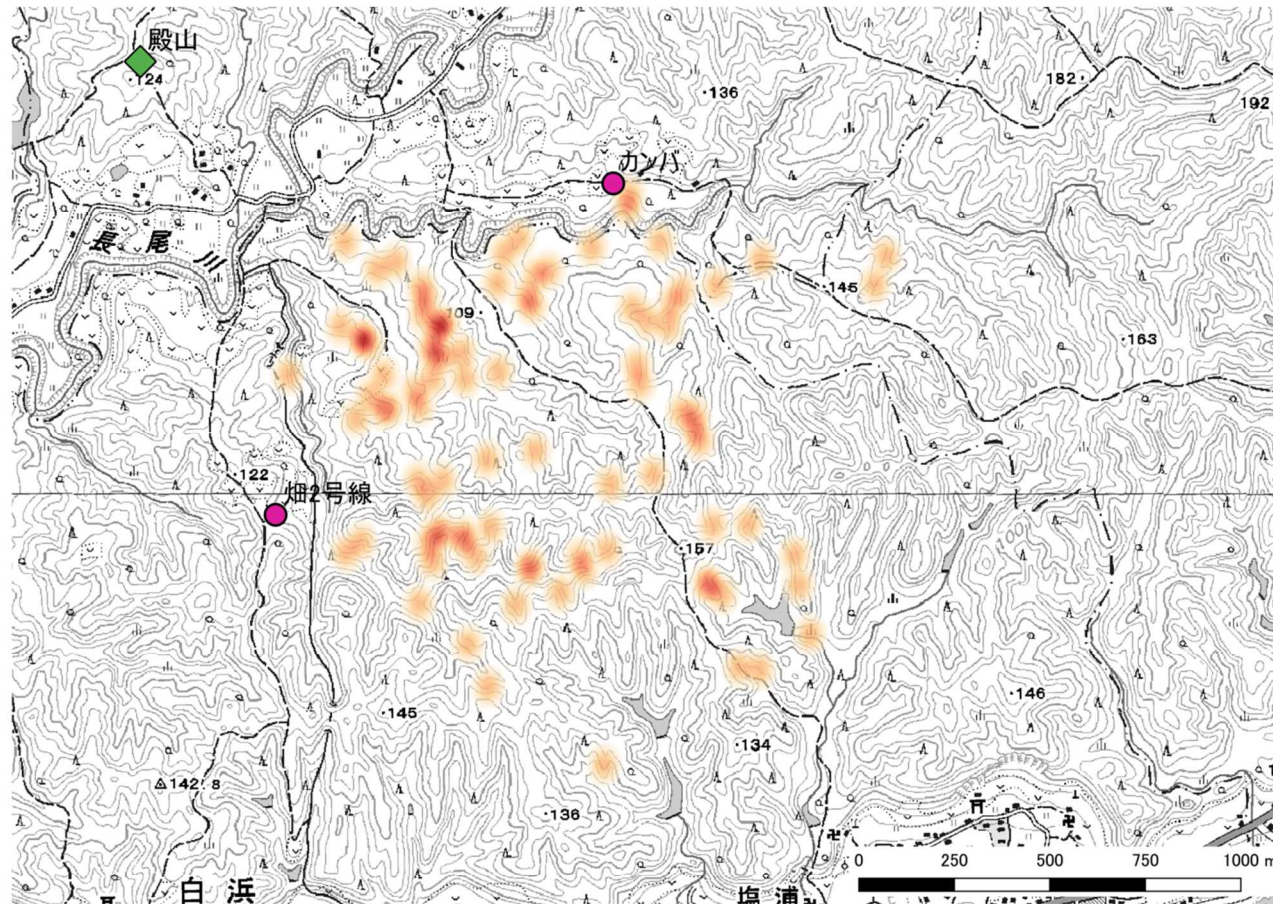
捕獲数：23 頭

特徴：

- ・群れの頭数は多いが、捕獲が少ない。
- ・山林部の利用が多い。
- ・夏季は川沿いを移動することが多い。
- ・移動速度が速い。



アジサイ群
 推定規模：20～40 頭
 捕獲数：32 頭
 特徴：瑞龍院の大型檻では捕獲歴なし。



ヨモギ群

推定規模：10頭以下

捕獲数：31～41頭

特徴：

- ・2年に1回ほどカンバで捕獲がある。
- ・山林部を利用しており、群れの規模が把握できていない。
- ・GPS装着個体は、2019年度に別群から移籍してきた個体。

凡例

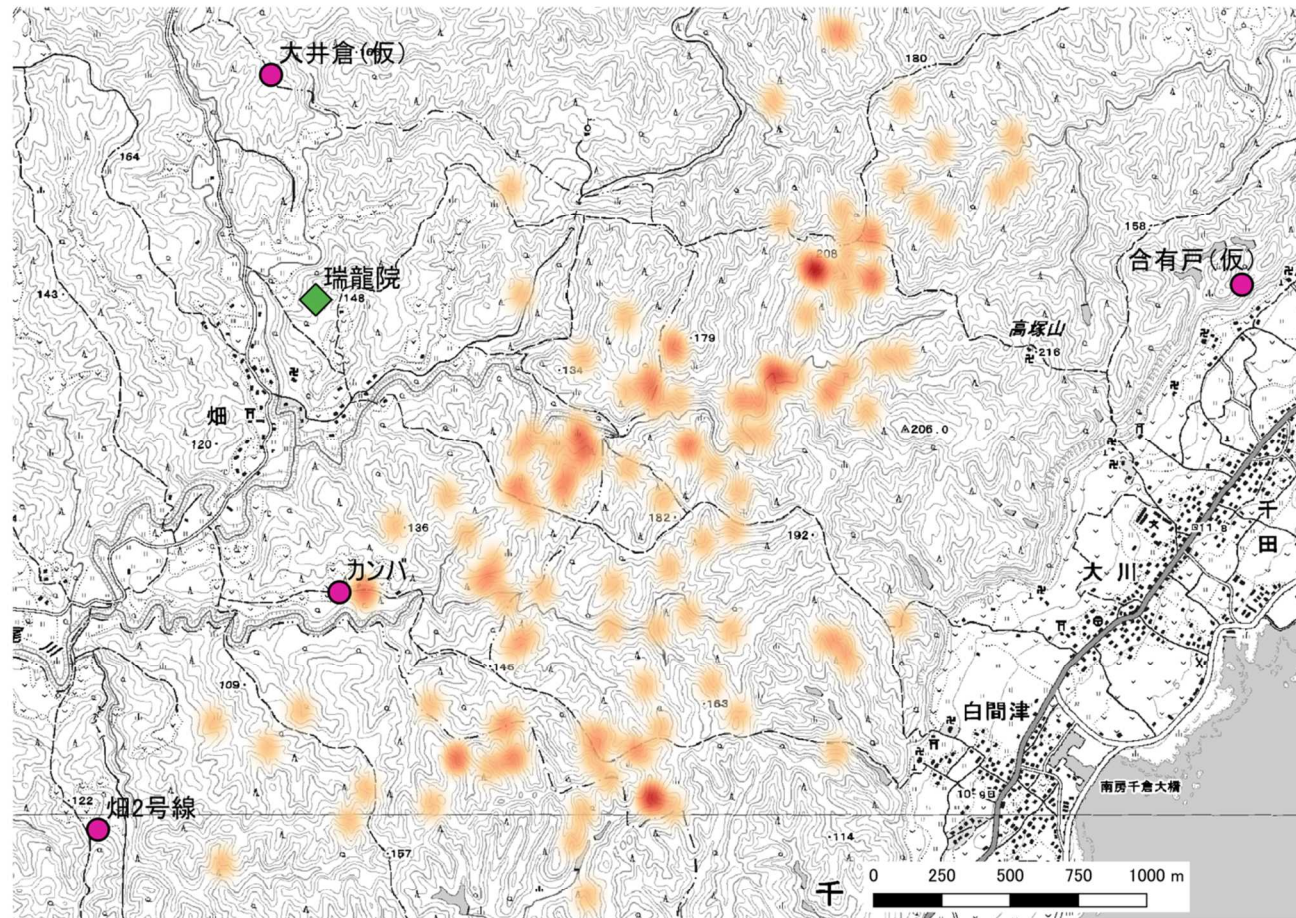
利用頻度



低 → 高

● 固定式大型檻

◆ 移設式大型檻



凡例

利用頻度



低 → 高

● 固定式大型檻

◆ 移設式大型檻

センリョウ群

推定規模：10 頭

捕獲数：218 頭

特徴：

- ・山林部の利用が多いが、2年に1回はカンバの大型檻で捕獲がある。
- ・群れの全体像が観察できないので分かっていない。
- ・最近ではより北側でも確認されている。

3. これまでの群れの分派推移

